

### 3 1 カラーピーマン

#### 地域慣行基準

##### 【化学肥料】

区 分	窒素成分量 【kg/10a】	備 考
県下全域	3 5	

※①種子消毒又は育苗期（定植前日又は定植当日の処理は含まない。）に殺菌剤又は殺虫剤を使用した場合は、その使用回数を地域慣行基準に加えるものとする。

②農薬使用回数の算出方法については、別紙参照のこと。

#### （1）特徴と吸収特性

カラーピーマンは肥料に対する反応が鈍く、栽培期間も長いことから施肥量が過剰になりやすい。**生育初期の草勢確保を確実にし、収穫期以降は着果量と追肥の量・タイミングを見極めることがポイント**となる。

養分吸収は、生育初期から果実肥大が進む定植後2ヶ月位まで一気に増えるため、この時期に窒素の肥効を十分に高める管理が重要である。

基肥は緩効性肥料等を主体に窒素、リン酸、カリともに20kg/10a程度施用する。また追肥は草勢を見ながら、第1果の催色期（およそ定植後50日前後）から開始し、9月下旬頃まで数回に分け窒素・カリ成分で1回当たり2～3kg/10aを施用する。**着果負担により草姿が低下しやすいため、定期的な追肥を心掛ける。**

また、スーパーシグモイド型（初期溶出大幅抑制型）肥料を用いた育苗ポット全量施肥あるいはリニア型（直線的溶出型）緩効性肥料を用いた定植時植え穴全量施肥により12～30%の減肥栽培が可能である。

#### 目標収量と養分吸収量

目標収量(kg/10a)	養分吸収量(kg/10a)				
	窒素	リン酸	カリ	石灰	苦土
1,000	4.5～5.0	1.5～1.8	6.5～8.0	4.0～4.5	1.5～1.8